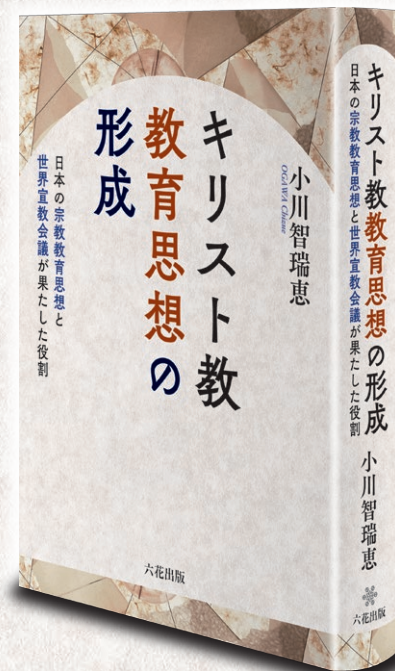


教育文化史・交流史の観点から
日本の近代教育に多大な影響を与えた
キリスト教教育思想の根底を探る



2026年
1月刊行!

A5判・上製・約480ページ
定価 6,000円+税 (税込6,600円)
ISBN978-4-86617-322-1

電子書籍版も同時刊行!

詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください

キリスト教 教育思想の 形成

著 ● 小川智瑞恵
OGAWA Chizue

日本の宗教教育思想と
世界宣教会議が果たした役割

二〇世紀に入って、世界のプロテスタント・キリスト教徒は本国以外の地での宣教について見直すため、世界規模の宣教会議を開催し行動指針について話し合った。本書は、現代のキリスト教史のなかの一九一〇年のエディンバラ世界宣教会議、一九二八年のエルサレム世界宣教会議、一九三八年のマドラス世界宣教会議から考察する。教育史において三つの宣教会議を考察する目的は、ヨーロッパとアメリカにおけるキリスト教界の宣教をテーマとしているものの、回を重ねるうちに、日本をはじめとして、各国の宣教運動を背景に宣教のみならず、教育の本質を明確にしているからである。

本書は、それぞれの会議の歴史背景、および国際状況を考慮しつつ、日本から会議に関与したキリスト教教育の中心人物が、自国と世界のキリスト教界における位置を活かして、いかに日本の教育に関する認識を議論したかを取り上げる。それによってキリスト教の教育観は固定概念ではなく、もともと歴史のなかの教育現場で形成される動的なものであることが判明する。それぞれの宣教会議の時期におけるキリスト教界の教育課題への認識やその変化は、やがてヨーロッパとアメリカの教育思想と文化に影響を与えた。その後、日本の教育に影響したことを認知することは、日本の教育の問題状況理解を深めることになる。

欧米の教育思想の根底にあるキリスト教教育観が、近代日本の人間教育にどのような影響を与えたのか。その源流を現代エキュメニカル運動（世界教会一致運動）における世界宣教会議に探る本書では、同会議の日本的展開を進めた新渡戸稲造、安井てつら、日本のキリスト教教育者たちの思想にも言及。近代日本のリベラル・エデュケーションの歴史に新たな視点を投じた画期的な一冊である。

(著者「序章」より)



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-28 電話03-3293-8787 ファクシミリ03-3293-8788 <https://rikka-press.jp> e-mail: info@rikka-press.jp

キリスト教教育思想の形成——日本の宗教教育思想と世界宣教会議が果たした役割●目次

序章 課題と方法	
第一節	問題の所在
第二節	対象の設定と先行研究の検討
一	対象の設定
二	先行研究の検討
第三節	内容と構成
一	本論文の構成
二	三つの世界宣教会議の前身
第一章 日本におけるキリスト教理解に基づく人間教育のはじまり——キリスト教理解とシンクレティズムをめぐる浮田和民における人格論——	
第一節	同志社在職期のキリスト教理解と教育
第二節	「個人」と「国民」
第三節	「生存主義」の問題
第四節	シンクレティズムとキリスト教理解
第五節	「人格」の提唱
第二章 一九一〇年エディンバラ世界宣教会議における教育論	
第一節	エディンバラ会議
一	会議の背景
二	エディンバラ会議の構成と主題内容
三	エディンバラ会議の評価と成果
第二節	日本のキリスト教男子学校の取り扱いをめぐる問題の所在
一	エディンバラ会議による調査と研究
二	文部省訓令第二二号関連への見解
三	エディンバラ会議における見解
第四節	男子高等教育機関創設に向けての議論
一	日本におけるキリスト教大学設立への要求
二	開教五十年記念大会における大学設立の訴え
三	エディンバラ会議にみる大学設立に関する見解
四	「中央基督教大学」設立構想
第四節	日本のキリスト教女子学校の取り扱いをめぐる公教育制度への対応
一	女子教育観
二	キリスト教女子学校におけるキリスト教教育
第三章 日本の女子高等教育への影響	
第一節	東京女子大学の創設
第二節	国際連盟時代の新渡戸稲造
一	ジュネーブにおける平和教育・女子教育の指導者として
二	新渡戸とエキュメニカル運動としての「教会による国際的友好の世界同盟」
三	東京女子大学の建学の精神「ジュネーブ湖畔より」
第三節	新渡戸稲造の女子教育論婦人に勧めて『「天を相手に世を渡れよ」教育への情熱と祈り
一	教育への情熱と祈り
二	女子教育の発展期に女性に望むこと
三	良妻賢母主義の問題点とその根底にある人間観への批判
四	「天を相手に世を渡れよ」祈り・静思黙考
五	教育の目的としての人格教育
六	平和教育の担い手の養成
第四節	安井てつにみる女子高等教育の意義
一	安井てつの教育への志
二	英国留学における女子高等教育者ヒューズとの出会い
三	新渡戸稲造との邂逅
四	女子に人格教育が必要な理由——男女共学・共存の基盤として——
第四章 一九二八年エルサレム世界宣教会議における教育論	
第一節	エルサレム会議
一	国際意識の進展と国際宣教協議会（IMC）設立
二	エルサレム会議の構成と主題内容
第二節	エルサレム世界宣教会議における宣教の課題と日本からの参加
一	エルサレム世界宣教会議における宣教の姿勢
二	エルサレム会議への日本の参加
第三節	エルサレム会議における教育論の時代背景
一	国際性の進展のなかにおける教育運動
二	ジュネーブ宣言前後の知的協力国際委員会（ICIC）と教育
三	教育の国際性進展とエルサレム会議
第四節	エルサレム会議における教育論
一	「文化国際主義」としてのIMC
二	ジョン・R・モットの意向
三	宣教活動の検討
四	エルサレム会議における教育論
第五節	日本への影響
一	代表者によるエルサレム会議の報告
二	世俗主義への対抗とキリスト教教育
三	モットの来日と特別協議会
四	「日本の基督教々育に就いて」
五	「日本基督教大学」設立構想とその挫折
第五章 一九三八年マドラス世界宣教会議における教育論	
第一節	マドラス会議
一	マドラス会議の背景
二	マドラス会議の構成と主題内容
第二節	日本のマドラス会議への参加
第三節	マドラス会議に見られる宣教と教育
一	教会と宣教の捉え直し
二	人間観と教会、宣教とのかかわり
三	教育と共同体形成
第四節	日本への影響
一	日本におけるマドラス会議の報告
二	会議参加者の印象・見解
第五節	戦後への架橋
一	戦時下の遣米平和使節団派遣
二	国際基督教大学の創立
終章 まとめと今後の課題	
初出一覧／文献一覧	

著者紹介

小川智瑞恵（おがわ・ちずえ）
東京女子大学卒。東京大学大学院教育学研究科総合教
育科学専攻博士後期課程（教育学コース）単位取得退学。
博士（教育学）。現在 桐生大学短期大学部教授

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話 03(3293)8787 Fax 03(3293)8788 電子メール info@rika-press.jp

注文カード	
帖合・貴店名	
冊	
（八木書店経由）	
注文数	
発行Ⅱ六花出版 著Ⅱ小川智瑞恵	
キリスト教教育思想の形成	
日本の宗教教育思想と世界宣教会議が果たした役割	
定価●六、六〇〇円（税込）	
ISBN978-4-86617-322-1	
お名前	
お電話番号	
注文	年 月 日